

【児童への話】

2学期が始まり、1週間が経ちました。心と体は、もうすっかり学校モードに戻りましたね。今週も、『時間 言葉 用意』をしっかり意識して生活するとともに、一日ひとつ、「人のためになること」「かしこくなること」「元気になること」を、頑張ってみてください。

さて今日は、「正直で誠実であること」についてお話しします。

皆さんは、アグネス・ゴンジャ・ボヤジュさんを知っていますか？修道女としての優れた活動により、1979年にノーベル平和賞を受賞した彼女は、「マザー・テレサ」の名前で親しまれています。今から116年前の1910年に生まれ、18歳から35歳まで、インドのカルカッタという街の学校で社会科を教える先生として過ごしたのち、カルカッタの学校に通えない貧しい子どもたちのために、街頭での無料授業を始めます。そして、今から29年前に87歳の生涯を閉じるまで、世界中の恵まれない人々のために奉仕活動を行いました。

マザー・テレサは、素晴らしい言葉をたくさん残しています。ノーベル平和賞を受賞したときのインタビューで、世界平和のために何をすればよいかと聞かれたとき、「家に帰って、家族を愛してあげてください」と答えたように、「愛」という言葉がとても印象的です。でも、校長先生の心に一番深く刻まれた言葉は、次の言葉です。

「あなたの正直さと誠実さが、あなたを傷付けるでしょう。

それでも気にすることなく、正直で誠実であり続けなさい。」

皆さんは時々、ウソをつかずに正直であること、ひたむきに正しい行為を続けることが、辛く感じることはありませんか？友だちの目が気になったり、頑張り続けることがイヤだなと思ったりするときも、きっとあると思います。それでも、正直であることや頑張ることが、皆さんのためにならないことは、絶対にありません。マザー・テレサの言葉は、「よい行いをするを、ためらわないこと」の大切さを教えてくれていると、先生は思っています。学校での学習や生活、休み時間の過ごし方、お掃除や当番活動なども、これに当てはまります。「きちんとやること」「最後まで頑張ること」を、恥ずかしいと思わないでください。校長先生の大好きな落五小の皆さんには、正しい行為を積み重ね、心を美しく磨き続け、人から愛される幸せな人生を送って欲しいと思います。

今日は、「正直で誠実であること」についてお話ししました。

【本講話について】

すばらしい2学期のスタートです。子どもたちの明るい表情と穏やかな生活態度を見ると、きっと充実した夏休みを過ごしなが、2学期を楽しみにしてくれていたのだと思います。ご家庭や地域の支えあつてのことです。ありがとうございます。

今日はマザー・テレサの言葉を用いて、「正直と誠実」という少し難しめな講話をしました。小学校の成長段階では、他者からの目が気になり、不真面目なことがちょっとカッコいいなと思う時期があるものです。しかし、小さなお仕事や日々の営みを疎かにせず、地道に努力を重ねられる人こそ、心に一本の柱があり、周囲から愛される人になれると私は思っています。子どもの頑張りを認めるのは、我々大人の大事な役目です。子どもが一日ひとつずつ成長できるよう、落五小の教職員一同、頑張っていきます。



マザー・テレサ (1910～1997)

「あなたの^{しょうじき}正直^{せいじつ}さと誠実さが、あなたを^{きず}傷^つ付けるでしょう。

それでも^き気にすることなく、^{しょうじき}正直^{せいじつ}で誠実であり^{つづ}続けなさい。」